

決算審査特別委員会

第55号議案・令和3年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定についておよび第56号議案・令和3年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月7日)の本会議において質疑が行われた後、議長および監査委員(松野久郎)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会委員長・四竈英夫、副委員長・平間知二は、9月9日および12日の2日間にわたり審査を行いました。

その結果、第55号議案については、反対の討論があり、採決の結果、賛成多数で認定しました。また、第56号議案については、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。(※第55号議案の賛否は14ページに掲載しています。)

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕白石市民バス運行について、運行地域より増便などの要望も出されているが、どのような検討を行なっているのか伺う。

〔答弁〕本市では利用者の利便

性向上のため、運行経路や時刻の見直しを行い、通学に利用する小・中学生の利用時間帯に合わせ、10月から3月までの間、越河線と白川線で午後4時台を増便、小原線で第1便と第2便の始発時を変更している。また、中心市街地循環便において、鷹巣地区のバス停を増やし、運行経路についても見直しを行なっている。

〔質疑〕高齢化が進む中、買い

物や通院等の生活を支える公共交通事業は充実させていく必要があると考える。

事業協力型の自家用有償旅客運送を手がける自治体も出てきているが、そのような検討は行なっているのか伺う。

〔答弁〕市民バスは、基点の各地域からバス停に行くまで遠いところもある。

地域公共交通計画の見直しの中で、幹線となる市民バスの検討のほか、アンケート調査や乗降調査等も踏まえ、各地区ごとに幹線につなぐ方法についても検討していきたいと考える。

〔質疑〕昨年、東京オリンピックが開催され、本市ではベラルーシの新体操ナショナルチームが事前合宿を行い、さまざまな交流を行なった。

東京オリンピック・パラリンピック推進事業を通じて、本市としてのレガシー(後世に残る遺産)をどのように捉えているのか伺う。

〔答弁〕世界のトップレベルチームを間近に見られる機会があっ

たことで、努力をしていくことでオリンピック選手になれるという気持ちや、思い出が子どもたちの中に残ったことがレガシーであると考えている。

また、仙台大学と連携して事前合宿に取り組んだことから、現在においてもさまざまな連携事業が進み、スポーツを介した地域振興に大学の知見を利用させていただくなど、関係性を持つことができた。

会場となったホワイトキューブは、インカレ新体操(全日本学生新体操選手権大会)の誘致につながり、非常に良い会場であるとの評価もいただいていることから、新体操の大規模な催事の誘致や開催につながったこともレガシーの一つと考えている。

農林水産業費

〔質疑〕多面的機能支払交付金事業は、地域が行う共同活動に支援を行うことで、地域資源の適切な保全管理が推進さ

れ、担い手農家の農地集積が期待されるとしている。

現在の担い手農家の育成状況を伺う。

〔答弁〕本市は水田を利用した稲作農業が中心で、経営所得安定対策等を含め、集積を進めている段階である。

新たな稲作農家の担い手はなかなか望めないが、後継者がいる方を中心に、共同利用機械の活用なども含め、育成を進めていきたいと考えている。

商工費

〔質疑〕企業立地推進事業について、昨年度の企業誘致活動の取組状況を伺う。

〔答弁〕令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、東京と名古屋で開催する宮城県主催の企業立地セミナーが中止になり、企業訪問活動のほとんどを自粛した。

今年度も県の企業立地セミナーは延期になったが、製造業